

平成 30 年度 第 1 回静岡市生涯学習審議会（第 5 期第 4 回） 会議録

1. 日時 平成 30 年 7 月 26 日（金） 午前 10 時から午前 12 時まで
2. 会場 静岡市葵消防署 7 階 71 会議室
3. 出席者
 - 【委員】 12 名
猿田会長、渋江委員、的場委員、大橋委員、前林委員、中村和光委員、
雨宮委員、植田委員、狩野委員、坂本委員、佐藤委員、橋本委員
 - 【傍聴者】 2 名
 - 【事務局】 豊後市民局長、深澤市民局次長、堀池参与兼生涯学習推進課長、
坂田参事兼課長補佐、織部生涯学習施設整備担当課長兼施設管理係長、
岡本主幹兼人づくり事業推進係長、降矢経理係長、
井上主査、竹澤主査、榎本主任主事
4. 欠席者 3 名（弓削副会長、田井委員、中村昭夫委員）
5. 報告事項
 - （1）平成 30 年度生涯学習推進課の主要事業について
6. 議事
 - （1）生涯学習推進大綱における前期推進計画の評価と後期推進計画の作成について
 - ①今年度審議会スケジュールについて
 - ②生涯学習推進大綱および推進計画の概要
 - ③生涯学習に係るアンケートの実施について
 - ④前期推進計画の進捗状況について
 - ⑤後期推進計画の策定に向けて
7. 会議内容
 - 下記のとおり

事務局

<報告事項第 1 号について説明>

猿田会長

ありがとうございました。ただいまの報告事項についてご質問等ありますか。
ないようでしたら、議事の第 1 号の説明をお願いします。

事務局

<議事第 1 号①～⑤について説明>

猿田会長

説明ありがとうございました。

皆さま、ご質問等ございますでしょうか。

では、私の方から1点確認をさせていただきます。

資料4の「前期推進計画掲載事業一覧」ですが、それぞれの施策の柱に各事業が付いているといったものですが、細かな内容の、例えば1ページの5番「英語 de おもてなしサポーター養成講座」を見てみると、この事業の成果指標は「講座終了後、実際におもてなし人材として活動している人の割合が30%」となっています。つまり、この事業については、どちらかというと「活用」に重点を置いているという風に読み取れる。その他の各事業についても、見ていくと成果指標の方向性は様々です。

また、各事業を取りまとめる施策の柱には、「生涯学習を行っている人の割合」や、「施設利用者数」といった成果指標が付いている。これら大きな3つの成果指標と、各事業の成果指標との関係が少しわかりにくいのですが、追加で説明いただけますか。

事務局

まず個々の成果指標ですが、市の中の様々な事業の中で、生涯学習に関連があるものについて、各事業の所管課が挙げてきたものを、推進計画の方向別にまとめています。事業は当課で行っているものもありますが、他課の事業については、必ずしも「生涯学習」のためだけに行っているものではないため、個々の事業の成果指標は、大綱の推進目標と違っているということがあります。

生涯学習に関連するいろいろな事業があつて、それらの事業を市が実施することで、生涯学習を推進するための3つの大きな成果指標が達成されていく、というのが推進計画の流れです。

猿田会長

それから、3つめの柱の「基盤づくり」に係る成果指標について、現在の目標値設定の合理性が如何か、という説明がありました。

感想になりますが、成果指標の目標値の問題というよりは、成果指標そのもの選定が適切であったのか、という問題であるような気がいたします。

「基盤づくり」が目標であるのなら、「貸館の利用者数」で成果をはかるより、「生涯学習をしやすい」、「学んだことを活用しやすい」と感じる市民の方がどれくらいいらっしゃるか、「基盤がしっかりできている」という感覚がどれくらい市民の方にいきわたっているかという点を確認したほうが適切なのではないかと感じました。

では、時間も限られておりますので、おひとりずつ、感想でも結構ですのでご意見をいただければと思います。

橋本委員

感想になります。私はあまりスポーツをしないのですが、アンケートを見ることで、スポーツをする時間や機会は意外と身近にあるのでは、ということに気づかされました。

同じように、このアンケートを実施することで、今まで生涯学習というものに縁がなかった方が、生涯学習を始めようかと思うきっかけにもなるのではないかと思います。ですので、成果指標を測るということもありますが、こういったアンケートを多くの方に回答していただくことは、生涯学習を広めるきっかけにもなるのではと思いました。

また、20代の若い層で生涯学習をしていないという人もいると思うのですが、過去のアンケートを見ると、情報を得るきっかけとして「SNS」という回答があり、特に10代20代の若い層には、友人からの口コミや、SNSというものが、生涯学習のきっかけとなると思います。若者に、自分たちの体験談をSNSなどで発信することを促すことが有効なのではないかと思います。

佐藤委員

主には感想になりますが、まず資料4の「③29年度の評価」ですが、A、B等の評価がありますが、これは各事業課が評価しているのかどうか、ということを確認させていただきたいです。

それから資料6の利用状況についてですが、利用者がすごく増えているというわけではありませんが、着実に増えてはいる。特に由比、蒲原など、後から合併した地区については、いい施設になったということもあって利用者が増えているので、これはとても好ましい状況ではないかと思いました。

あと参考資料4の12ページですが、「生涯学習に関する情報をどのように提供すれば良いか」という設問に「自治会・町内会の回覧を通じて」という回答が多いことに注目しました。

いろいろな情報提供の手段がありますが、まだまだ紙ベースでの情報提供というものが大切なのではないかという感想を持ちました。

猿田会長

ありがとうございました。では1点目の確認事項について事務局からお願いします。

事務局

これは各事業課が評価しているもので、量的な部分での評価です。例えば10回の講座を実施予定であった場合、10回実施出来たら100%実施となりますので、評価はAとするような、そういった量的な評価を事業課で行っています。

坂本委員

アンケートを見ますと、導入部分の生涯学習の定義がスポーツやコンサート、展覧会からボランティア、と多岐にわたっていますね。これを考えると、皆さん何かしら「生涯学習」を行っていると思うのですが、意外と生涯学習をやっている人の割合は少ない。実際はもっと多い気がします。回答する方が「生涯学習」というものをシビアに捉えているのでしょうか。

あと過去のアンケート結果を見ますと、内閣府調査との比較がありますので、そういったものを参考に静岡市としてターゲットをどこにするのか、ということを考えていけばよいかと思います。また次回以降、3つの柱にどういった施策を落とし込んでいくかといった議題となるかと思いますが、静岡市はNPOや、事業者、学校、博物館といった他の機関との連携が少し弱いのかな、といった印象を受けました。

それから、こういった「生涯学習」について、もっと公務員の方たち自身が積極的に参加されたらどうかといったことも考えました。

狩野委員

推進期間を見ますと、今年度は見直しの年ということで非常に重要な節目の年と思います。資料2の大綱策定時の背景を見ますと、情勢が変わっておりますので、そういった部分を踏まえて、策定していくことが大切かと思います。

それから「こ・こ・に」の事業ですが、「英語 de おもてなしサポーター養成講座」についてのお話など伺っておりますと、英会話を学ばれて2人1組で、清水港に客船が入港した時などにボランティアで通訳をなさったり、地域を案内される活動をされているとのこと。こういった活動が地域の活性化などにつながるのではないかと感じました。

植田委員

感想になりますが、この大綱に昨年度に我々が審議した内容、施設の利用方法の見直しに係る答申を行いました。その内容がどこかで入ってくると良いのかなと思いました。

また、事業の評価がいろいろされておりますが、ちょっと数値的な評価に偏っているのかなと感じます。もっと定性的な評価があってもよいのかなといった感想を持ちました。

渋江委員

新たに追加したい項目ということで、「障がい者の生涯学習の推進」という項目がありましたが、現在も施策の柱に「誰もが気軽に学び合える環境づくり」というものがあり、様々な事業を実施されています。これは次回までに示していただければといった内容になりますが、では今現在、そういった講座などに障がいのある方が参加されたいという希望があった場合、その方々に対してどのような配慮がなされているのかということを知りたいと思います。

また東京の方ですと障がい者の方が学校を卒業された後、就労等をされている方が、余暇を充実して過ごすための場というものを行政主導で運営したり、また保護者の方が運営されていたりといった例がありますが、静岡でそういった場があるのかどうか、またあるとしたら、どういった形で静岡市が関わっているのかといったことをお伺いしたいと思います。

今まで「障がい者の生涯学習の推進」に関してどういった施策がなされてきたのか、といったことを整理することで、後期の推進計画でどういった施策を打っていけば良いのかという議論につながっていくのではないかと思います。

猿田会長

では、今のご質問については次回までにお示しいただくということをお願いします。新しい視点を盛り込むという点については「リカレント教育」の点も含めて、現状を示していただきたいというご指摘だったかと思います。では続けてをお願いします。

的場委員

いくつか確認しておきたいことがございます。

まず今年度の審議会では、後期の推進計画の作成をお願いしますというお話でしたが、具体的にはどういったことをするのか、ということ。といいますのも、静岡市全体で千、二千といった数の事業を実施されているかと思いますが、その一つひとつを点検して、「これは生涯学習に関わる事業か否か」ということを確認していくのか。または前期の、現在の事業を見直すことで後期の事業計画とするのか、ということ。

もう一点は会長の方からもご発言があった、3つ目の施策の柱の成果指標の件ですが、やはり私も「生涯学習を支える基盤づくり」の達成度を貸館の利用者数で計るのは少し無理があるのかな、といった感じを受けました。それで、事務局としては指標の見直しを、といった話もあった訳ですが、そうした時に大綱に載っている指標を、ひいては大綱の中身を、変えるといったことは可能なのかということです。その点を確認したいと思います。もしそれが可能ということであれば、もう一度、指標として何が適切なのか、例えば「身近に生涯学習を行うことのできる場があるか」といった成果指標が良いのかもしれませんが、そういったことを検討しなければならないのかなと思います。

それから資料4の各事業の成果指標ですが、先ほど事務局から説明があったように、各事業については、各事務事業の目的があるので、その目的に沿った成果指標がある。それがそのままここに載っているのも、疑問が出てくるのが当然な訳です。つまり、各事業を実施している課として「生涯学習推進大綱の目的達成のため」という意識が薄いからだと思うので、そこは庁内でどうするかといったことが重要であるように思います。

先程、植田委員からもご指摘があったように、こういった成果指標を行うときには、定量的な評価だけでなく、やはり定性的な評価も必要であろうと思います。なぜかと申しますと、各事業には、その上に何のためにその事業をやるのかという「施策」という目的があります。

その「施策」の目標達成のため、手段としての各事業がどれだけ目標に貢献できたか、成果指標としてそれを計ればいいわけですね。ここまで、何度か出てきました「英語 de おもてなしサポーター養成講座」を例に考えてみますと、この事業は「未来を創る人材の育成」というものにどれだけ貢献できたかということ、数値的な指標で計れば良いのですが、それができなければ「8割くらいは達成している」、「ある程度できている」といった形でもよいので、この事業が生涯学習推進大綱に掲げる目標に対してどれくらい貢献できているか、という評価がないと説得力がないのではないのでしょうか。この審議会で生涯学習の推進といった方向で物事を見るのであれば、各所管課にもそれがわかるように評価をしてもらう必要があるのかなと思います。

猿田会長

3点ほどありましたが、事務局からお答えいただけるものがあれば手短にお願いします。

事務局

1点目の、後期推進計画の策定において具体的に何を行うのかというご質問についてですが、市の全ての事業の洗い出しは難しいので、作業としては、現在の掲載事業の見直しと、さらに新たに追加すべき事業があるかどうかをご検討いただくという形を考えております。

2点目の、成果指標の変更の可否についてですが、この審議会でご検討いただいた後、後期推進計画のパブリックコメントを実施いたします。現在の、前期の成果指標については、今年度に評価を実施するものであり、変更はできないものと考えますが、これから策定する後期推進計画に係る内容については、パブリックコメントの手続きを経た上で、合理的な理由があれば変更することは可能と考えています。

大橋委員

いくつか質問があります。まず、1点目ですが、資料5に、今年度から「市民後見人養成講座」を推進計画に追加したとありますが、どういった理由や経緯で追加したのか、ということ。

2点目ですが、資料5の4ページ目ですが、成果指標について平成30年度の実績を現在アンケート中とありますが、これは平成29年度実績について、今年度アンケートを実施するという事ではないのでしょうか。

事務局

アンケートについては、現在実施中のものは年度途中の実施ではありますが、平成30年度の実績としてアンケートを実施するものです。ただ、成果指標の3つ目の「貸館の利用人数」だけは今年度が終了しないと利用人数が確定しないので、平成30年度の評価としては見込みの数値で行う形となります。

大橋委員

それから感想になりますが、アンケートを実施する中で生涯学習の定義として、いろいろ挙げられていますが、「新聞で読んだ時事用語をインターネットで調べる」といったことまで含まれるとすると、ほぼすべての方が生涯学習を行っているということにならないのだろうかという感想を持ちました。特に若い方は皆さんスマホを持っていて簡単にインターネットを見られるわけですから。それでもそんなに「生涯学習を行っている」人の割合が高くないのはどうした訳なのか。

また、かなり生涯学習の定義が広いので、そこまで生涯学習と言っていいものかなという疑問は感じました。

猿田会長

ありがとうございます。では1点目のご質問について、事務局から説明願います。

事務局

「市民後見人養成講座」については、社会の高齢化が進む中、今まではご家族や、弁護士がお金の管理などをしてきたものが、一人暮らしの高齢者の方がだんだんと増えていく現状、それでは立ち行かなくなってきたといった問題があります。それで、主に民生委員さんなどを想定しているのですが、後見人を増やしていく必要があるため、他都市の取組みを参考に、静岡市でも市民を成年後見人として育成していく取組みを今年度から実施するために始めた事業です。

講座の内容として「市民主体のまちづくり」に関わるものであることから、「こ・こ・に」の講座として実施し、また大綱の推進計画にも所管課としてエントリーをしたというものです。

前林委員

私としては、資料を見てもよくわからないのが、静岡市としてどこに重点を置いているのかということです。重点に対して成果指標があって、それを数値で評価するのはわかるのですが、あまりにも事業がありすぎて、またその事業に対してそれぞれの指標があるので、目的が本当に達成されているのかがわかりにくいと思います。

例えば、1人の方が何かを学びたい、学んで活かしたいと思って何回も通う必要がある講座に参加する。一方、ある1人の方はコンサートを1回聴きに行く。それを同じ「1」としてカウントして評価して良いものかどうかは疑問に感じます。

ですから指標として評価するのであれば、市として重点は何かというところをはっきりさせて、その部分について指標として評価するといったことが必要なのではないかと思います。

私は小学校に勤務しておりますので、推進計画に載っている放課後児童クラブなどには

よく顔を出しています。非常に大変な状況で、一生懸命にやっていると、本当に頭が下がる思いでいます。

自分の立場から申し上げますと、こういった教育関係の事業に、生涯学習として重点を置いて欲しいとは思いますが、全体的に、何かこう、いろいろな事業があって、市としてこれだというものが見えない。これが静岡市の考える生涯学習だというものをはっきり打ち出した方がいいのではないかと、それが静岡市の特色になるのだと思います。

指標や数値を打ちだそうとする試みはよくわかるのですが、そこに静岡市としての考えが見えてこないのが、私には疑問でした。

中村（和）委員

私も前林委員と同じで、数値的な指標には疑問を感じます。私は演劇をやっております、市からもっと入場者数を増やして欲しいというような話があります。そういった時に感じるのは、お金を払って公演を見に来てもらう人を増やすのと、例えば無料のギャラリーにちょっと寄って展示を見てもらう人を増やすのでは、同じ「1人」を増やすのでも労力には大きな差があるということです。

数値的なことを考えてしまうと、1人のボランティアを育成するために、お金をかけて、何回も講座を開催するようなことは非効率で、もっと簡単な方法で生涯学習への参加者を増やせばいいという風になってしまうのではないかと思います。

そうではなくて、その「1人」にどんな意味があるのかという評価をしないと、何のためにこういった審議会に参加しているのかもよくわかりません。極端に言えば、「成果指標を変えたいがどうか」ということのために、ここにいるのではあまり意味がないと思う。

生涯学習の推進のためにもっと知恵を出してほしいというのならば、もっと審議のしがいもあると思うので、もう一度成果指標については考えた方がいいのではないかとというのが自分の感想です。

雨宮委員

生涯学習施設ではありませんが、私も施設の管理運営を任されている団体の人間ですが、やはり人数で評価されますね。ほかの委員の方もおっしゃっていたことですので、重ねては申し上げますが、私も人数で評価するのではなく、内容で評価していただきたいと考えます。人数的なものより、これでこういった効果がありましたということを示していただきたいです。

それから、私は生涯学習にとって大切なことは、それが楽しいかどうかだと思っています。自分の地区の生涯学習交流館の状況しかわかりませんが、そちらではみなさん楽しそうに活動に参加されています。そういったものが見えてこないのが残念だと思います。

また先程から話に出てきている「英語 de おもてなしサポーター養成講座」ですが、客船が寄港した時に英語で困っているといった地元のお店の方の声などを聞きますので、今以

上にこういった活動がそういった現場につながっていけばいいなあと思っています。

繰り返しになってしまいますが、なかなか各施設で行われている活動の状況はこういった場には上がってきませんが、人数だけでなく、活動の中身であったり、皆さんが楽しく活動されることが大事なのではないかと思います。

猿田会長

ありがとうございました。本日いただいた内容については事務局に受け止めていただいて、次回の審議会につなげていただければと思います。

では本日の議事は全て終了いたしましたので進行を事務局にお返しします。